

## カオスを解決できるか？国が取り組む事業

# 統一 QR コード「JPQR」

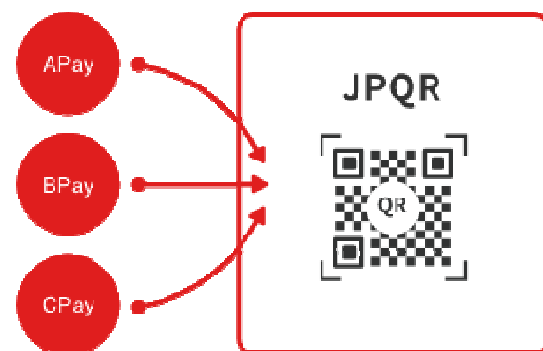


キャッシュレス決済の利用が増える中で、特に競争が激しくなっているのがQRコード決済です。多数の事業者がキャッシュレス決済サービスを提供しており、事業者ごとに初期費用や使い方等の店員教育、それぞれのQRコードスタンドを設置するためレジ回りがごちゃごちゃになってしまったりと、導入する店舗側の負担が問題となっています。こうした状況を改善すべく進められているのが、複数の決済サービスを1つのQRコードで利用できるようにする「JPQR」事業です。

### JPQRとは

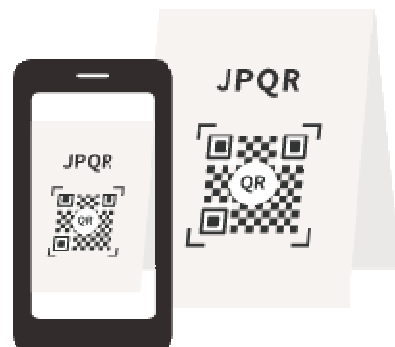
「JPQR」は一般社団法人キャッシュレス推進協議会により策定されたQRコード決済の統一規格です。複数社ある決済QRコードを1枚のQRコードにまとめる(統一化する)ことで、1枚のQRコード(JPQR)で複数社の決済に対応します。

この取り組みは総務省が経済産業省とも連携して推進しており、小規模店舗でのキャッシュレス決済を普及させることを目的としています。2019年から岩手県・長野県・栃木県・和歌山県・福岡県の5つの県全域で先行スタートし、約12,000店舗でJPQRが導入されました。今回は全国の店舗を対象に、本年6月22日からWeb申し込み、8月1日から利用開始になりました。



### JPQRの特徴

- ▶ 複数のキャッシュレス決済事業者に一括で申し込める  
「JPQR」は、窓口が一本化され、同時に契約することができるので手続きなどの手間が軽減されます。
- ▶ 統一QRコードにより読取端末が不要  
読取端末を設置する必要がなく、JPQRひとつで複数の決済サービスの決済が可能です。店頭を設置するQRコードは一つにまとめることで、管理や決済が簡単・スピーディーになります。
- ▶ JPQR売上管理画面(無料)で一括管理  
JPQR売上管理画面で、店舗における決済データを、一括して管理することができます。決済事業者ごとに、売上件数や売上金額、入金予定日、入金額などを確認することができます。
- ▶ 審査や売上入金等の手続きは各事業者ごとに必要  
審査手続き(不備修正等含む)・入金・解約手続きは各業者それぞれで行う必要があります。
- ▶ 決済ごとに手数料が発生する  
初期費用や維持費用はかかりませんが、決済手数料と入金手数料が発生し、金額は決済業者ごとに異なります。
- ▶ 専用のサポート窓口がある  
JPQR専用のサポート窓口があり、事業者ごとに個別に問い合わせる必要がなく、まとめて相談できます。



## 対応している決済サービス一覧

※申し込み可能時期ごとに五十音順

2020年8月31日時点の情報です 最新の情報は申し込みページからご確認ください

分類	サービス名	申込可能時期	JPQR決済開始時期	マイナポイント対応(ポイント名)
国内決済サービス	atone	6月22日	—(対応済み)	—
	au PAY	6月22日	—(対応済み)	○(au WALLET 残高)
	J-Coin Pay	6月22日	—(対応済み)	○(J-Coin Pay)
	d払い	6月22日	—(対応済み)	○(dポイント)
	FamiPay	6月22日	10月	○(FamiPay)
	メルペイ	6月22日	—(対応済み)	○(ポイント)
	ゆうちょPay	6月22日	—(対応済み)	○(ゆうちょPayポイント(仮称))
	YOKA!Pay(福岡銀行のみ)	6月22日	—(対応済み)	—
	LINE Pay	6月22日	—(対応済み)	○(LINEポイント)
	楽天Pay(アプリ決済)	6月22日	2020年冬頃	○(楽天ポイント)
	OKI Pay	8月31日	—(対応済み)	—
	commoney	8月31日	—(対応済み)	—
	はまPay	8月31日	—(対応済み)	—
	PayPay	8月31日*	11月対応予定	○(PayPayボーナス)
	ほくほくPay(北陸銀行・北海道銀行)	8月31日	—(対応済み)	—
Money Tap	8月31日	—(対応済み)	—	
国際決済サービス	Union Pay(銀聯)	6月22日	—(対応済み)	—
	WeChat Pay	8月31日	2020年内	—

(\*)既存のPayPay加盟店は10月下旬以降に受付開始予定

## 請求書払い用 JPQR

JPQRの一方式として、実際の店舗での支払いに加え、請求書の支払いを自宅等で簡単に行うことができる「請求書払い」が新たに規定されました。請求書払いは、請求書(払込票)に記載されているバーコードをスマートフォン等のQRコード決済アプリで読み込むことで、請求書の支払いを自宅等で簡単に行うことができるようになります。なお、支払いの際は、「QRコード」ではなく、請求書に記載の「バーコード」を、利用者が直接コード決済アプリで読み込むことで決済が可能となります。

しかし、まだJPQR事業のホームページからの申し込みはできず、請求書払いをご希望の場合には、キャッシュレス推進協議会のJPQR専用窓口メールアドレスへお問い合わせくださいとしています。

2019年にJPQR事業が先行してスタートした地域ではキャッシュレス決済の利用率が大幅に増加しました。QRコード決済が乱立する中で、JPQRはQRコード決済の利用者を広げ、キャッシュレスの普及を加速させる可能性を秘めているようです。しかしながら、まだ認知度が低いことや、手数料、入金時期などが事業者ごとに異なるなど、QRコード決済事業者の足並みがそろっていないなどの問題もあるようです。

今後、実際に利用されていく中で、『JPQR』が店舗や利用者にとってより使いやすいものになるように期待したいものです。

\* 詳細はこちらをご覧ください

総務省 統一QR「JPQR」普及事業について <https://jpqr-start.jp/>